

からだのための命の経験、成長、務め

(土曜日——午前の第二の部)

メッセージ 5

召された者の全体的な経験を持つことによって

神の資格づけられたしもべとなる

聖書：出3:2-4, 6, 8, 14-15. 4:3-4, 6-7, 9, 14後半-16, 24-26

- I. モーセは歴史上、最初の完全で、資格づけられ、成就された神のしもべでした。モーセは聖書における最初の完全に資格づけられた神のしもべであったので、神のしもべの標準的なモデルであり、神が彼を召すことは、彼のしもべたちを召すことの標準です——参照、出 2:11-15. 使徒 7:22-30, 34-36. ヘブル 11:28。
- II. 神によって召されている人は、燃えるいばらやぶのビジョンを見なければなりません——使徒 7:22-36. 出 3:2：
 - A. 創世記第3章のいばらは、墮落した人がのろいの下にあることを示します。罪はのろいをもたらし、のろいは隔てる火の炎をもたらしました——17-18, 24節。
 - B. 出エジプト第3章で、のろわれたいばらは神の器となり、火の炎はいばらやぶと一になります——2-4節：
 1. 贖いを通して、のろいは取り除かれ、火はいばらと一になりました。
 2. 贖うキリストはのろいを取り除き、火としてのその霊がわたしたちに与えられました——ガラテヤ3:13-14. ルカ12:49. 使徒2:3-4。
 - C. これが示すのは、神の召されている者がみな、自分はいばらやぶ（神ののろいの下にある罪人——創3:17-18, 24）にすぎず、内側で火が燃えていることを認識しなければならず、またこの火が聖別における三一の神ご自身、すなわち復活の神であることを認識しなければなりません——申33:1, 16. マルコ12:26。
 - D. 燃えるいばらやぶの記録は、神の召された者たちに対する継続的な記念また証しとなります——申33:1, 16. マルコ12:26：
 1. 墮落した人のためにほふられ神にささげられた小羊で表徴される神の贖いのゆえに（創4:4）、創世記第3章の隔てる炎は、出エジプト第3章の訪れ内住する炎となりました——ガラテヤ3:13-14. ローマ12:11. IIテモテ1:6-7。
 2. いばらやぶは燃えても焼き尽くされないという事実は、神がわたしたちの天然の命を燃料として用いたくないことを示します。彼は、燃料としての彼ご自身だけをもって燃えたいのです——出3:2. ローマ12:11. IIテモテ1:7. コロサイ1:29。
 3. 燃えるいばらやぶのしるしを通して、神がモーセに印象づけたのは、彼が器、経路であり、それを通して神が現されるということです——IIコリント4:7. ピリピ1:20, 25-26。
 - E. 召会は団体のいばらやぶであり、復活の神をもって燃えています——参照、創2:22. エペソ2:6：

1. 神の究極の目標は住まいを得ること、彼の住居を建造することです——ヨハネ1:14. 2:19. Iコリント3:16. 啓21:3, 22。
2. 召会は、贖われた人性の内側で燃えている三一の神です。これは神聖なエコノミーです——ルカ12:49. 使徒2:3-4。
3. イスラエルの子たちは、今日の召会を予表し、団体のいばらやぶであって、贖われ（出13:14-16）、聖別され（2節）、造り変えられ、建造されました。
4. 召会は貧しく、低く、死んでいると言ってはなりません。あなたはこれを言えば言うほど、ますます自分自身をのろいの下に置きます。しかし、召会生活のゆえに主を賛美し、それについて称賛するなら、自分自身を神の祝福の下に置きます：
 - a. 「彼はヤコブの中に罪科を見いださず、イスラエルの中に災いを見られなかった」——民23:21。
 - b. 「何と美しいことか、ヤコブよ、あなたの天幕は！ イスラエルよ、あなたの幕屋は！」——24:5。
 - c. 「あなたを祝福する者はすべて祝福され、あなたをのろう者はすべてのろわれる」——9節後半。
5. コリントに在る召会におけるすべての分裂、罪、混乱、賜物の乱用、異端的な教えにもかかわらず、使徒はなおもそれを神の召会と呼びました。なぜなら、集まった信者たちを神の召会とする神聖で霊的な本質が、実際にそこにあったからです——Iコリント1:2。
6. 今日、団体のいばらやぶは神の住まいとして、完全に復活の中の事柄です：
 - a. 召会は「キリストのもの」、「復活のもの」、天的なものです——参照、創2:22. エペソ1:19-23. 2:6。
 - b. 復活は神聖なエコノミーの命の命脈また生命線です——Iコリント15:12. 使徒13:33. Iコリント15:45後半. Iペテロ1:3。
 - c. わたしたちが主の復活の命の中で、主の復活の力をもって彼のために労苦することは、決して無駄になることはなく、神の永遠の定められた御旨を完成するという結果になります。それは、罪人にキリストを宣べ伝え、聖徒たちに命を供給し、金、銀、宝石としての手順を経た三一の神に対する経験をもって召会を建造することを通してです——Iコリント15:58. 3:12。

Ⅲ. 神によって召されている人は、神がどなたであるかの啓示を持たなければなりません：

- A. モーセを召した方の名は、「わたしはある」です——出3:14-15：
 1. 「わたしはある」という名は、神、すなわちキリストが、あらゆる積極的な事物の実際であることを示します——ヨハネ8:58. 6:35. 8:12. 15:1. コロサイ2:16-17。
 2. わたしたちは、わたしたちを召す神があり、わたしたちがないことを知らなければなりません——ヘブル11:6。

B. モーセを召した方は、彼の父の神でした——出3:6：

1. 「あなたの父の神」は、神との歴史を意味します。
2. 神の目に、わたしたちを召す主はわたしたちの霊の父の神です—— I コリント4:15, 17. 詩103:7. ピリピ2:19-22。

C. モーセを召した方は、復活の神でした——マタイ22:29-33：

1. わたしたちは、アブラハム、イサク、ヤコブの神、すなわち復活させる三一の神を知らなければなりません：
 - a. アブラハムの神は父なる神を表徴し、彼は人を召し、人を義とし、人を装備して、信仰によって生きさせ、彼との交わりの中で生きさせます——創12:1. 15:6. 第17章—第18章. 19:29. 21:1-13. 22:1-18。
 - b. イサクの神は子なる神を表徴し、彼は人を祝福して、彼のすべての豊富を受け継がせ、彼の満ちあふれる生活を享受させ、平安の中で生きさせます——25:5. 26:3-4, 12-33。
 - c. ヤコブの神は霊なる神を表徴し、彼はすべての事柄の中で働いて、彼を愛する者に益を得させます。そして、人を造り変え、人を神聖な命において円熟させて、人がすべての人々を祝福し、全地を支配し、命の供給としての子なる神をもって、すべての人々を満足させることができるようにします——27:41. 28:1—35:10. 第37章. 第39章—第49章. ローマ8:28-29。
2. 神の召された者は復活の中にいなければならず、あらゆることを復活の中で行なって、召会を建造しなければなりません。召会は完全に復活の中にあります——エペソ1:19-23. ローマ8:11. I コリント15:45後半, 58. 参照、民17:1-8。

IV. 神によって召されている人は、神の召しの目的を知らなければなりません——出 3:8：

- A. 神の召しの目的は、消極的な面で、神の選びの民をサタンとこの世の強奪と暴虐から救い出すことです。サタンとこの世はパロとエジプトによって予表されます——ローマ1:16。
- B. 神の召しの目的は、積極的な面で、神の選びの民をすべてを含むキリストの中へもたらすことです。彼はわたしたちの霊の中で実際化されたすべてを含む霊であり、乳と蜜の流れるカナンの地によって予表されます——コロサイ2:6. ガラテヤ3:14。

V. 神によって召されている人は、どのようにサタン、肉、この世を対処するかを知らなければなりません。これは神の働きの原則です—— I ヨハネ 3:8. ガラテヤ 5:17. I ヨハネ 2:15. 参照、 I コリント 2:11. ローマ 7:18. ガラテヤ 6:14：

- A. わたしたちが神以外に依り頼むものは何であれ、蛇の隠れている所です——出4:2-4. ルカ10:19。
- B. わたしたちの肉はらい病（罪、腐朽、腐敗、不潔）の構成です——出4:6-7. ローマ7:17-18, 24-25. イザヤ6:5。
- C. この世とその供給、娯楽、享樂は、死の血で満ちています——出4:9. I ヨハネ5:19. ガラテヤ6:14。

VI. 神によって召されている人は、符合することと切ることの経験を必要とします：

- A. 召された者は、彼の拘束、防衛、保護のために、からだの原則の中で彼と符合する者を持たなければなりません——出4:14後半-16. ルカ10:1. 申32:30. 伝4:9-12。
- B. 召された者は進んで、彼の天然の命の主観的な割礼の経験を持たなければなりません。それは、主の御手の中で有益なものとなって、彼の永遠の定められた御旨を完成し、装備されて、神の委託を遂行するためです——出4:24-26。
- C. 神の召しのあらゆる面が今日、主の回復におけるわたしたちの経験となりますように。

務めからの抜粋：

神のしもべは、働きを支配する法則を知る必要がある

李常受（ウイットネス・リー）兄弟：ニー兄弟がここにいさえすれば、わたしは霊の中で何の負担もないと感じます。わたしの霊は安らぎ、眠っているかのようにですが、ニー兄弟はわたしが何か語ることを願っています。わたしは何か語らなければならないと思います。

わたしたちは、神がご自身の法則にしたがって働かれることを知らなければなりません。神の奉仕に従事しているわたしたちが有用になるためには、神の働きを支配する法則を知らなければなりません。わたしたちは彼の御手の中で有用になることを願うなら、彼の働きを支配する法則を知らなければなりません。わたしは多くの兄弟姉妹に会いました。彼らは祈っていないと言うことはできません。愛、敬虔、賜物に欠けていると言うこともできません。彼らにはこれらのものをみな持っていますが、彼らにおいて神の働きはほとんど現されません。わたしは、これには理由があるに違いないと感じます。最終的に、わたしは、これらの人々が神の働きを支配する法則を理解していないことを発見しました。

もしわたしがこの部屋を日光でいっぱいになりたいと願うなら、北に面する窓を開くだけでなく、東、南、西に面する窓もおなじように開くべきです。わたしは開ける窓が多ければ多いほど、ますます多くの光を得ます。これに反して、光が入って来ることを願っても、どの窓も開けないなら、わたしが光を求めてあらゆる祈りをしても、何の成果も見ないでしょう。神の働きについても同じことが言えます。わたしたちは神の祝福を受けることができる前に、神の法則にしたがって働かなければなりません。もし神の法則にしたがって働かないなら、敬虔の限りを尽くして願っているすべてを祈るとしても、何も起こらないでしょう。わたしたちは神の働きを支配する法則について明確な理解を持つなら、彼の働きにおいて有用なしもべとなるでしょう。長年の訓練の後、多くの兄弟姉妹は、わたしたちを通しての主の働きを支配する法則についてとても明確になりました。わたしたちが正しく彼に仕えることができるには、知っておかなければならない点が少なくともいくつかの点あります。もちろん、わたしたちは、彼の働きを支配する法則を個人的に知るだけでなく、同労者たちの間や召会の中で知る必要があります。

七、八年前、わたしはある日この問題を瞑想していました。わたしは、神の働きについて知っておくべき法則を考えていました。不思議なことに、その瞑想の時、こう言う声を

聞いたようでした、「出エジプト記第3章と第4章のモーセの召しと、神がどのように彼を用いたかについて読みなさい」。わたしはすぐに出エジプト記第3章を開きました。それを読んでも、何も劇的なものを感じませんでした。しかし第4章を読んだ後、あらゆる文章から神の光がほとぼしるのを感じました。わたしは大いなる輝きを受けたとは言いませんが、そこにあるいくつかの大いなる原則を見たと言っています。

モーセが学んだ三つの学課

モーセは、旧約における神のしもべの模範と考えられることができます。新約では、パウロを模範的なしもべと考えることができます。旧約でも新約でも、モーセは神の家全体において忠信であったと考えられました（民12:7、ヘブル3:2）。霊的原則から言えば、神のしもべとしてのモーセの奉仕は、彼が生きた時代とは関係がありません。それは、彼が旧約に生きていたか、新約に生きていたかは関係がありません。彼の働きを支配する原則は、すべての神のしもべを支配する原則です。わたしたちはみな、モーセの背景を知っています。わたしはそれをここで繰り返す必要はありません。彼はすばらしい背景から来ました。彼はパロの娘の子として育てられ、主に仕える心がありました。彼は、エジプトのあらゆる知識を獲得して、神の民を解放するために自分自身を装備しました。神は、モーセが彼の民であるイスラエル人をエジプトから良き地へと救い出す者であると定められましたが、モーセの願望、知識、雄弁は、そのような奉仕のために彼を資格づけませんでした。神は極端な方法で環境を混乱させて、彼を強いてシナイの荒野に逃れさせました。

モーセは荒野に追いやられた後、自分は神に見放されたと感じました。彼は荒野で過ごした何年かの間に、自分自身にある信仰を失いました（出3:11、参照、2:11-13）。彼は、人生はせいぜい八十歳であることに同意しました（詩90:10）。彼にはもはや時間も余地もなく、彼の生涯は荒野で終わるかのようでした。彼が自分の命は終わろうとしていると思った時、神は出エジプト記第3章と第4章で入って来て彼を召されました。神が燃えるしばの中で彼に現れ、彼をご自身の働きに召したとき、彼は自分自身は何の働きに対する資格もないと考えました。彼は言い訳をして、自分は口が重い者であると言いました。神はアロンとミリアムを備えて彼の助け手とされました。しかし、出エジプト記第4章1節でモーセは答えて、「彼ら（イスラエル人）がわたしを信じないで、わたしの声に聞き従わず、『エホバはあなたに現れなかった』と言う」と言いました。これは、モーセがまだ動機づけられておらず、確信していなかったことを見せています。そこで、神は三つの奇跡を通してご自身を啓示されました。これらの奇跡は、神がモーセを召した確かな証拠でした。モーセは三つの事を行なうようにと告げられました。最初の行為で、彼の杖は蛇へと変わりました。二番目の行為では、彼の手がらい病になりました。第三の行為では、水が血へと変わりました（出4:2-9、17）。その三つのもの、すなわち杖、肉、水はすべて有用でした。しかし、それらは害を及ぼすもの、すなわち蛇、らい病、血へと変わりました。

杖が蛇に変わる学課

まず、杖が蛇へと変わる奇跡について語りましょう。モーセにとって、杖の第一の機能

は、群れを牧養するためでした。その後、それはイスラエル人を導いて行程を行かせるのに用いられました。その当時、モーセは八十歳でした。杖は彼を支えるものであり、彼が生きていくのに必要でした。わたしたちは自分の手に実際の杖を持っていないかもしれませんが、みな何かに頼って生活しています。商人は商売を杖として持っています。学生は学問を杖として持っています。妻は夫を杖として持っています。わたしたちの杖とは、わたしたちが依り頼むものです。それはわたしたちの支えです。わたしたちは多くの杖を持っています。それらはわたしたちの両親、教育、商売、金銭であるかもしれません。これらはとても有益であることができ、主にとっても役立つことができます。しかし、いったんわたしたちが神に触れるなら、自分の生活の頼みとしているこれらの杖が、地に投げられなければならないことを見るでしょう。

わたし自身の召しと、主の有用なしもべたちの召しから、人が主に用いられるためには、まず自分の手に握っている杖を投げ捨てなければならないのを見ることができます。いったん杖が地に投げられるなら、杖の背後に隠されている蛇が暴露されます。蛇は絶えず杖の背後に隠されています。杖を地に投げることによって、蛇の正体が暴露されます。この奇跡がわたしたちに見せているのは、神の照らしと神の力の働きの下で、わたしたちの支えである杖が、実は蛇の性質を持つものであることが暴露されるということです。蛇は初めから変装してわたしたちの所に来ます。旧約から啓示録の時まで、蛇は常に背後で、何かの下で、何かの間に変装しています。蛇の目的は、神ご自身の目的のために創造された人を占有し強奪することです。モーセの目に杖は彼の支えでしたが、神の目に、それはサタンの具体化でした。サタンの目的は、人を占有し強奪することです。

モーセは杖を投げ捨て、それが蛇になるのを見た時、それから逃げました。彼はあえてそれに触れませんでした。神は彼に、その蛇の尾をつかむようにと命じ、蛇は彼の手の中で再び杖になりました。この時の前、モーセは何年もその杖を手にしてきました。それは彼にとってとても貴重なものでした。しかし彼がそれを地に投げたとき、それが蛇であり、何年にもわたって自分を占有してきたものであることを発見しました。この経験は彼に、彼の過去の支えはほかならぬ蛇であること、彼に害を加えるものであることを見せました。

神はモーセに杖を捨てるよう告げたのではなく、地に投げるようにと告げられたことに、どうか注意してください。このように投げるのは、杖の性質を明らかにするためでした。それから神はモーセに、蛇となった杖の尾をつかむようにと告げられました。南京のある責任の兄弟は商人でした。後に、彼は商売をすることの危険性を見て、あえてそれに再び触れませんでした。しかし神は、杖を捨てるようにと言っているのではなく、その尾をつかむようにと言っておられるのです。わたしたちはなおも杖を持たなければなりません、その尾をつかまなければなりません。過去、杖がわたしたちの中心でした。今日、主がわたしたちの中心でなければなりません。過去わたしたちは、自分の生活で奮闘していました。今日わたしたちは福音のために苦闘するのです。

山東省で、ある年長の兄弟はかつて、自分の生涯の伴侶である妻は古い蛇であると言い、自分の子供たちは小さな蛇であると言いました。彼は罫にかかり、主に仕えることも、福音のために自分自身を完全にささげることができなくなりました。彼は蛇を恐れて、その

尾をつかむことができませんでした。しかし主はわたしたちに、杖を捨て、永久にそれを放棄するようにと告げられたわけではありません。杖を捨てるのは簡単です。福音のために中国西北部に移住して、妻、子、背後にある大小すべての蛇から離れるのは簡単です。しかし主はわたしたちに、これを行なうようにとは告げておられません。そうではなく、主は、わたしたちが手を伸ばして蛇の尾をつかむことを願っておられます。隠れている蛇の正体が暴露された後、わたしたちはその尾をつかまなければなりません。これが蛇を対処する最上の方法です。もしその頭をつかむなら、それはわたしたちを噛むでしょう。しかし、わたしたちがそれを逆さにして尾をつかむことができれば、それはその力を失い、弱くなります。最後に、それは経路となり、わたしたちはそれを通して権威を行使するでしょう。それはもはやわたしたちを支配することはないでしょう（出4:4、17。ルカ10:19）。もしわたしたちがその尾をつかむことができなければ、何の権威を持つこともないでしょう。

四福音書は、主に従うために、わたしたちは自分の両親、子供などを捨てなければならないと言っています（マタイ19:29）。パウロは書簡で、わたしたちは両親を愛し敬わなければならないと言っています（エペソ6:1-3）。福音書にある捨てることは杖を投げることであり、エペソ人への手紙での教えは杖の尾をつかむことです。この杖は権威の杖となります。最後に、モーセはこの杖をもってエジプトですべての奇跡を行ない、イスラエルの子たちをエジプトから導き出しました。

香港に在る召会では、二百人以上の兄弟姉妹が自分自身を明け渡しました。あなたがたが学ばなければならない最初の学課は、自分が持っているすべてと、すべての支えを地に投げ、その尾をつかむことです。

自己を知る学課

これに続いて、神はモーセに、手を懐に入れるようにと告げられました。彼が手を懐に入れ、出してみると、らい病で雪のようになっていました。これは二番目の学課です。まず、わたしたちは手の中の杖を地に投げて、蛇の正体を暴露し、その尾をつかまなければなりません。そして、わたしたちは二番目の事を行なわなければなりません。モーセに従って自分の杖を投げるだけでは十分ではありません。わたしたちには第二の学課、モーセに従って自分の手を懐に入れる学課を必要とします。わたしたちが手を出すと、それはらい病になっています。懐は、わたしたちが内なる部分で何であるかを表徴します。らい病はわたしたちの罪を表徴します（ローマ7:17-18）。これは、わたしたちの内側には善なものがないことを告げています。わたしたちは、自分には何も無く無であることを見なければなりません。召会の中にわたしは、批判し、裁き、つぶやいている多くの兄弟姉妹を見ます。わたしはこれにとっても怒ります。これらの兄弟姉妹は彼らの懐にらい病が隠れていることを認識していないと、わたしは信じます。もしわたしたちが自分の肉を知っているなら、たとえ兄弟たちを批判するようにせき立てられても、あえてそうしないでしよう。わたしたちは自分がらい病であることを知っています。わたしたちは似たような人たちが一緒に集まっていること、自分も彼らと同じであり、みな内側では等しく汚れている

ことを知っています。

わたしたちの賛美、愛、同情が自分自身から来る限り、それらはらい病です。ニュートンの詩歌は、彼が自分の罪を憎むと言っています。人がいったん自分自身を見て自分自身を知るなら、他の人を容易に批判しなくなるでしょう。彼は、自分には他の人を批判する資格がないことを見るでしょう。主は、わたしがこう言うことを赦してくださいませ。毎回わたしが兄弟姉妹について何かを言いたくなる時、主はわたし自身がらい病であること、わたしの不潔さ、汚れを見せられます。兄弟姉妹がどれほど間違っているとしても、またわたしがどれだけ傷つけられたとしても、わたしはあえて批判しません。わたしの内側には、主の召しにふさわしいものは何もありません。神の恵みによって今のわたしがいるのです（Iコリント15:10）。わたしはこのように自分自身を知るなら、何の抵抗もせず、自分自身を低くするでしょう。これは、神の子たちの間のらい病を取り除きます。わたしたちはだれにも不満を持つべきではありません。ただ自分自身を憎むべきです。自分自身のはっきりした絵を見た人は、自分にごみくず、がらくた、腐敗、汚れのかたまりにすぎないことを認識するでしょう。それは罪の具体化にほかなりません。神のあわれみがないなら、神と共に働く価値はありません。いったんこれを見るなら、わたしたちは多くの告白と祈りを持つでしょう。

この世を知る学課

神の働きを知るためには、サタンの強奪と自分自身の肉の腐敗を知らなければならないだけでなく、この世の邪悪も知らなければなりません。神がモーセに見せた三番目の奇跡はこれでした、「あの川の水を少し取って、それを乾いた地に注がなければならない。あなたがあの川から取った水は、乾いた地の上で血となる」（出4:9）。この川は、エジプト全土を潤しているナイル川を指しています。それは墮落したこの世の享楽を表徴します。エジプトはこの世の予表です。聖書によれば、エジプトは産物が豊かで、ナイル川の供給を通して満ちあふれるものを享受していました。ナイル川は命そのものであり、エジプトの命の供給でした。血は死のしるしです。表面的に、ナイル川は供給と享受をもたらしていました。しかし神の目に、それは死です。世の人はその満ちあふれとすばらしさを享受しており、わたしたちは貧しく、打ちひしがれ、欠乏しているかもしれませぬ。わたしたちは、クラスメートが栄えているのを見るかもしれませぬ。彼らは学生時代にはあまり良くなかったのに、今日あらゆるものを享受しています。これは、わたしたちの痛みをさらに増し加えます。しかしいったん水が血へと変わるのを見ると、人が家や車などあらゆるものを享受するのは血を飲んでいるのであることを、わたしたちは認識します。

いったんわたしたちが、自分の支えが蛇であり、自分の内側には不潔以外の何もなく、あらゆるものが血であることを見るなら、もはや妄想の中にとどまることはないでしょう。主は、彼が与える水だけが人の渇きを永遠にとめると言われました（ヨハネ4:14）。渇いている人は、決してこの世の水で満足することはありません。主が与える水だけが人の渇きをいやし、この水だけが主のために働くわたしたちの必要を満たします。わたしたちがこの三つの原則を覚えておきますように。

啓示があつてはじめて働くことができる

倪柝聲（ウオッチマン・ニー）兄弟：以上の三つの学課は、一つの基本的な原則に要約することができます。それは見ることです。いったん人が見るなら、自然に分離されます。神の啓示がなければ、ただ杖を見るだけであり、わたしたちの手は清潔に見え、エジプトの供給はほかでもない川の水であると思うでしょう。しかしいったん神の啓示を得るなら、わたしたちは同じことを感じないでしょう。わたしたちは、自分の手の中にある杖が蛇であり、自分の手が汚れており、この世が死に満ちていることを見るでしょう。

出エジプト記第4章は、神の啓示と人の見方との対比についての章です。多くの人がわたしに、「どうすれば神の啓示を得ることができますか？」と尋ねます。これは、杖が蛇であること、あなたの手にらい病があること、水が血であることを、あなたが見たかどうかの事柄です。若い人は野心的な夢を持っています。わたしは、あなたがたが美しい夢から覚めることができるようにと望みます。神はモーセに、これらの奇跡を見て、それを行なうように命じただけでなく、イスラエル人の所に行つて同じことを行なうようにと命じられました。神の目的は、モーセがイスラエル人に解放をもたらすことでした。これはモーセには不可能なことでした。しかしいったん神の啓示を受けたら、彼の感覚は変わりました。仮にこのコップの底にミミズがいるとします。のどが渇いているので、わたしはこのコップから飲みます。しかしながら、コップの底にミミズがいるのを見ます。わたしは再び飲みたくなかったとき、このコップを見てどう感じるでしょうか？ わたしは内側でミミズを「感じる」と思います。啓示はこのようにわたしたちに働きます。本来、わたしはある事柄について何の感覚もありませんでした。モーセは奇跡を見る前、彼の杖について何の感覚も持っていませんでした。しかしそれが蛇へと変わった後、杖についての彼の感覚は変わりました。

わたしたちの肉に対する感覚についても同じことが言えます。罪はこの世にあるだけでなく、わたしたちの中にもあることを、わたしたちは知らなければなりません。凶悪さはこの世だけでなく、わたしたちの中にもあります。過去わたしたちにはこの感覚がありませんでした。ある日わたしたちは懐から手を出して、自分がらい病であることを発見しました。その日から毎回わたしたちが自分の手を伸ばすとき、らい病のことを思うのです。ある人は、へりくだり、弱く、従順であるふりをします。しかし彼らの振る舞いは人為的です。人に啓示がないなら、へりくだってられるのは、意識してこのように振る舞うときだけです。しかしいったんそのように振る舞うことを忘れると、彼はもはやへりくだりません。彼は絶えず用心していなければなりません。わたしたちは奨励や叱責の言葉を語る時、「わたしの懐」から出てくる言葉がらい病であることを認識していなければなりません。主がわたしたちを召されたのは、わたしたちがどれほど多く自分自身をささげたかに基づいてではなく、わたしたちがどれほど多くの啓示を受けたかに基づいていることを、どうか覚えておいてください。ある兄弟がかつてわたしにこう言いました、「たとえ今わたしが、以前よりどれほど弱いとしても、あの二人の兄弟よりはまだ強いのです」。わたしは、彼は決して自分の腐敗した状態を見たことがないのではないかと思います。

主のしもべはまた、この世の水についても感覚がなければなりません。渴きをいやすの

は、わたしたちの必要を満たすためです。わたしたちの何人かは、この世の地位や祝福を求めて何年も祈ってきたでしょう。わたしは、わたしたちが神からの強烈な啓示を得て、この世からの達成はすべて血にほかならないことを見るようにと望みます。啓示を得た人たちの目に、水は血にほかなりません。タオルや靴下を買うようなさ細なことにおいてさえ、水が血へと変わる可能性があります。わたしたちは主に仕えたいなら、エジプトにとどまってナイル川の水を飲んではいけません。そうではなく、わたしたちは荒野へと行って、岩から流れる水を飲むべきです。

ここでわたしたちはみな、以前に見なかったものを見なければなりません。啓示を受けた人はみな、自分は奥義的なものを目撃したと言うでしょう。人にとって、それは杖、懐から出た手、ナイル川の水です。しかしいったん神の啓示とビジョンを得るなら、わたしたちはその事の正体を知り、それらが蛇、肉、血であることを見るでしょう。わたしたちはそれらから逃げ去るでしょう。わたしたちは恐れて後退するでしょう。神の啓示だけが、わたしたちが信頼している事柄に対する真の認識を与えます。神の啓示だけが、わたしたちの最大の罪が自己であることをわたしたちに見せ、神の啓示だけがこの世の邪悪をわたしたちに見せます。この世では、杖は依り頼むものであり、自己は良いものであり、水は飲むことができるものです。しかし、わたしはリー兄弟と共にお願いします。どうか明確な啓示を神から受けてください。あなたがたはこの世、自己、あなたがたの周りのあらゆる事柄の真の絵を見なければなりません。そのときはじめて、あなたがたは神のために働くことができ、そのときはじめて神に受け入れられます。（ウオッチマン・ニー全集、第62巻、第28編）